

随筆



沖縄を離れたから、 沖縄が見える。

中部徳洲会病院 外科
池原 康一

沖縄に帰ってきて6年が過ぎる。実に早い。振り返ると私がどれだけ成長したかと反省ばかりである。しかし、沖縄のために頑張りたい。医療もそれ以外もという思いは益々強くなるばかりである。

私は大学卒業後、すぐに大学を、そして沖縄を離れた。その当時はほとんどの医学部卒業生は医局に属する時代であり、私は異端児であったろう。家族・友人にも心配をかけたと思う。まず私が医局に属さなかった理由は、ただ臨床がしたかったとういうに過ぎない。そもそも医師を目指すほとんどの人が、臨床医になりたいと思うのではないだろうか。しかし医局では、あるいは大学では臨床以外の雑務が多く、臨床がないがしろにされるのではないかと考えた。もちろんそれを否定しているのではない。研究や教育は重要であり、その上に臨床が成り立っていることを十分に知っているつもりである。

またなぜ県外で就職したかと言うと、沖縄を離れ、厳しい環境で自分を鍛えたかったからである。なんくるないさーとのんびり屋の私は、このまま沖縄でのほほんと暮らしていると、大変な大人になると不安を持っていたのだ。内地での研修は非常に厳しかったが、また勉強にもなった。それと内地での生活がいろいろな見方・考え方を教えてくれた。これは私の人生・生活のなかで非常に役立っている。私の価値観が広がったように思われる。

沖縄を離れて、沖縄を外から見ると沖縄の良さが分かる。沖縄の自然、人柄、文化など、皆に教えたくなる。沖縄に住んでいるときは当たり前だと思い、気にしていなかったことが、とても素敵に思われるから不思議だ。しかし沖縄

の欠点も見えてくる。が、それも愛らしく思えるのである。欠点も慣れてしまえば欠点と思わなくなってくる。

しかし、一旦外から見つめ直すとその欠点に気づき、改善することもできるのである。沖縄に基地があることも考え直す必要があるだろう。きれいな海を埋め立てる事もそうだ。飲酒運転が多いこと、朝まで酒飲む悪しき文化など例を挙げればきりが無い。しかし沖縄で暮らしていたときは前に書いたことは当たり前だと思っていた。私も若いころ飲酒運転したことがある（もう時効だと思うので白状するが）。変えるべきところは変えて、さらに良い沖縄にするべきである。医療面でもそうだと思う。沖縄には「ゆいまーる」という言葉がある。しかし沖縄に帰って驚いたことは、非常に沖縄の病院同士の競争が激しいことだ。どの病院も自分の病院が一番になろうと必死のように見える。私は現在属する病院で乳癌の診療をさせていただいている。その関係で沖縄の乳癌を診療される先生方と交流を持つことができた。そこで学んだことは、自分の病院だけが乳癌診療をして、患者を集め満足しているのではなく、沖縄の全ての乳癌患者さんを幸せにしたいとの思いである。そのため頻回に乳癌に関する勉強会があり、私も招待を頂いている。乳癌について何も分からなかった私にもいつも声をかけていただき感謝している。

しかし沖縄の病院はお互いをライバル視し、十分な協力体制がないように思える。お互いの病院はライバルではなく、同志ではないだろうか。もちろん切磋琢磨して成長し、それを患者に還元する必要があるが。まず沖縄の患者を幸せにしたい。日本の患者を幸せにしたい。そして世界の病で苦しむ患者を幸せにしたい、と思うのである。なんだか大きなことを言い過ぎている気もするが、それを願っている。私が属する法人はすでに外国にも病院を建てた。今後も多くの国で病院建設を計画中である（実際に進行中である）。私自身が直接していることではないが、私が現在の病院で働いていることはい



くらかは、それらの役に立っていると思うと感慨深いものがある。沖縄から世界の医療に貢献している気がする。

いきなり大きなことはできない。まず目の前にある小さなことをしっかりすることから始まると思う。目の前にいる患者に対して真摯に診療することから。そこから私の沖縄医療が始まると思う。毎日気を引き締めて頑張りたい。

私は沖縄が大好きだ。妻はないチャーなのでしばしば沖縄の文句をブツブツ言うが、一生懸命にそれに反論している自分のことが、私は好きである。小さいながらこの大好きな沖縄の医療のために頑張りたい。

★リレー状況

—平成17年以前掲載省略—

- 50. 樋口大介先生 (独立行政法人 国立病院機構
沖縄病院) Vol. 42 No.3
- 51. 古謝淳先生 (南山病院) Vol. 42 No.5
- 52. 城間清剛先生 (城間クリニック) Vol. 42 No.7
- 53. 野原正史先生 (のほら元氣クリニック)
Vol. 42 No.10
- 54. 久貝忠男先生 (沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター) Vol. 42 No.12
- 55. 米田恵寿先生 (沖縄県立宮古病院)
Vol. 43 No.3
- 56. 仲地広美智先生 (宜野湾記念病院)
Vol. 43 No.6
- 57. 与座一先生 (ハートライフ病院) Vol. 43 No.9
- 58. 勝連英雄先生 (かつれん内科クリニック)
Vol. 43 No.12
- 59. 真栄田宗慶先生 (アメカル耳鼻科クリニック)
Vol. 44 No.3

原稿募集!

随筆のコーナー (2,500字以内)

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。